

S.G. Report

No.10

『高校生のためのリサーチリテラシー入門』

- 日時： 平成26年12月13日（土）14：00～15：30
- 参加者： SGコース生徒（46名）および職員
- 目的： Research Projectの大きな柱となる研究論文作成の基礎的情報を提供する
- 講師： 山口 剛史 先生（岡山大学） 林 創 先生（神戸大学）



【研修内容】

研修内容										
14：00～14：45	<p>林先生より</p> <ul style="list-style-type: none">●研究(リサーチ)とは何か？ 研究とは「物事について深く考えたり、調べたりして真理を明らかにすることである。物事の「問題」を発見し、その問題を論理的に解決すること。●社会で求められる力 「問題」を発見し、解決策を提示しなければならない。 ＝研究と同じである!! しかし、社会では「報告書」を作り提出しなければならない。 →そのための「書く力」が必要だ。 →『8つの力(リサーチリテラシー)』が必要 <table border="0"><tr><td>1) 聞く力</td><td>2) 課題発見力</td><td>3) 情報収集力</td></tr><tr><td>4) 情報整理力</td><td>5) 読む力</td><td>6) 書く力</td></tr><tr><td>7) データ分析力</td><td>8) プレゼンテーション力</td><td></td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">●今回の話の柱はその「8つの力」のうちの《書く力》と《データ分析力》 <p>1) 書く力</p> <ul style="list-style-type: none">・『学術的文章』とは？ ある学問分野における問題について理由を示しながら論理的に主張している文章のことである・『学術的文章の構成要素』 ①何らかの「問題」を提起している ②「問題」に対して「理由」を示しながら論理的に「解答(結論)」をしている	1) 聞く力	2) 課題発見力	3) 情報収集力	4) 情報整理力	5) 読む力	6) 書く力	7) データ分析力	8) プレゼンテーション力	
1) 聞く力	2) 課題発見力	3) 情報収集力								
4) 情報整理力	5) 読む力	6) 書く力								
7) データ分析力	8) プレゼンテーション力									

	<p>③「理由」を裏づけるために「証拠」を提示（文献やデータなどの資料を引用）している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『不十分な学術的文章』 書き手の個人的問題。「問題提起」がなく「解答（結論）」もない
14:45~15:30	<p>2) データ分析力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『Research Literacy』とは何か？ →事実や数字を正しく読むための能力=データ分析力 ・『データ分析力』とは？ 統計的方法は研究を遂行する上で重要な役割を果たす 説得力のある証拠、適切なデータを収集し、適切な方法で分析し、分析結果を正しく読み取る そのために→『統計学の知識が必要』となる

【生徒感想】

- ・今回、私がこの講演会で一番印象に残っていることは、学術的文章についての悪い例を最初に見せられたとき、何が悪いのかまったく分かりませんでした。しかし、どこがどう悪いのかを説明されたとき、納得しました。そして自分が今まで小・中学生のときに書いていた文章のままではレポートなどはまとめられないのだと思いました。～中略～様々な視点から物事を見定め、結論を導き出していくことは、レポートを書くことだけではなく、これからの日常生活で決断をしなければならぬ場合にも大切になってくことではないかとも思いました。(S.T.)
- ・今回の講演会を聞いて、新しくさまざまなことを学びました。本を事前に読んでいたので、講演会でお話ししていただいたこともとても頭に入ってきました。私が特に興味を持ったのは、「自分の興味のあることを、他人の興味を持つことに変える」ということです。論文を書く、ということは自分の考えを周囲に伝える、発信することだと思います。しかし、それらは自分からの視点のみで書いてしまっはいけない、ということを改めて感じました。「自分にとってどうなのか」ではなく、「どのような人にとって、どんな影響がでるのか」など様々な視点から物事を見て判断する必要があるのだと思いました。そのためにも一つのことを考えるときに、さまざまな視点から物事を見ることを日ごろから意識しなければならないと思いました。(M.F.)
- ・私は今回の講演を聴き、研究とはどのようなもので、何を意識しながら進めていくべきものなのかということを知りました。その中で最も印象に残っていることは「クリティカルシンキング」という言葉です。研究を始めるにあたってまずは物事の問題を発見する必要があります。そのためには物事を鵜呑みにせず、じっくりと批判的に考えなければなりません。私は情報が正しいかどうか、筋が通っているかを考えずに何でも信じ込んでしまう傾向があります。これはただ物事を受け身で捉えているだけで、自分からそれに積極的に関わろうとしていないことを意味していると思います。偏見を持たずに物事を見て、だからと言って鵜呑みにすることなく正しい目で物事の本質を見極められるようになりたいです。(～後略～)
(C.I.)